

七飯町海外交流派遣研修を終えて～Concord 町～

町民代表 たかはし 高橋 ひろこ 拓子

I、始まりの朝

10月26日7時30分、「行ってきます」とお仏壇に手を合わせ、家族とともに函館空港へ。コンコード町への交流研修のための荷づくりは3回目。娘と息子が派遣された4年前と5年前を思い出し準備は万端。空港へ向かう車の中、しばらく見納めとなる街を眺めていました。緊張はないが、空港へ着くと「いよいよ」という実感が湧いたのと同時にボストン行きの航空会社が日本航空であることに安堵している自分がいました。

教育長をはじめ、政策推進課の皆さん、参加者の家族に見送られ搭乗。涙ぐんでいる中学生を眺めながら微笑ましく思っていると、二十歳の我が娘も涙ぐんでおり、苦笑いするしかありませんでした。見送る方が泣くのは、遺伝だと「血の繋がり」をこんなところで実感することとなりました。

II、緊張の対面式

自宅を出発し24時間、ボストンの空港へ到着。ロビーには一目でコンコード町の皆さんとわかるほど、私たちを笑顔で友好的に出迎えてくださる一行がいました。そんな暖かい雰囲気の中、すっかり気分は七飯町とコンコード町のハーフ。私もいつの間にか日本のお辞儀より握手をし、ハグをし、挨拶と自己紹介をしていました。出迎えの中に、今回のホストファミリーであるジョン・クラッツリーさんがおり、優しく手を差し伸べてくれたのが印象的でした。

その後、スクールバスでCCHS（コンコード・カーライル高校）へ。そこでは、ホストファミリーとのアットホームな対面式を終え、それぞれの家へ別れる私たちの緊張をほぐしてくれるかのように、遅い時間にもかかわらず、手作りのクッキーや飲み物でもてなしてくださいました。私のホストファミリーはクラッツリーさんご夫妻。同じ町民代表の杉村さんと一緒でした。英語が苦手な私にはこれほど心強いことはありません。しかし、中高生はたった一人でホストファミリーの家へ。別れ際に「また明日」と声を掛けても、寂しそうな顔や不安な顔など一切見せず、笑顔でそれぞれの家に向かって行きました。その姿に私も背中を押され、一週間のホームステイが始まったのでした。



パーティーにて
クラッツリーご夫妻と

Ⅲ、クラッツリーさんご夫妻

クラッツリーさんのご自宅。ご主人は講師のジョンさん。奥さまは建築家のホリーさん。お二人とも陽気で暖かいご夫婦でした。ご夫妻が揃ったのは夜 10 時過ぎ。ジョンさんが戻るまで、ホリーさんと自己紹介をしながらリビングで過ごしましたが、緊張した空気が漂っていました。話し声も小声となり笑い顔も引きつ



レストランにて

っているのがわかりました。言葉の壁の厚さを感じながら、スマートフォンの翻訳機能を駆使し、意思疎通を図りましたが、片言の英語でも分かり合えるのは、伝えたい気持ちと理解したい気持ちが相交わって、お互いの気持ちを汲むという小さな気遣いが、一番の意思疎通のツールとなったように思います。

ジョンさんが帰ってきてからプレゼントを渡すと、とても喜んでくださいました。ジョンさんに日本画のマグカップ、ホリーさんに印伝風のバッグ、お二人に和紙人形、

そして七飯町からのお土産を。特に印伝風のバッグには興味があったようでインターネットでどんなものなのか調べていました。お土産を話題にほっと和んだ時間を過ごし、長い長い一日が終わりました。

Ⅳ、ホームステイ本格始動

二日目の朝、ぐっすり眠れたおかげで、時差ボケもほとんどありません。コンコード町での本格的な生活がスタートしました。朝は、パンとベーコンとスムージーなどの飲み物。その日によって、マフィンやパンケーキやシリアルや目玉焼き。日本でも見られる食事風景です。ただ、卵が思ったより小さかったり、ベーコンがドライであったりと、食材の小さな違いの発見がありました。また、ホットオートミールとチョコレートが入ったジャムを初めて食べましたが、美味しいものと美味しいものをミックスすると更に美味しくなるだろうという発想は、素材の味を大切にしてきた日本人には受け入れがたいものがあるだろうと感じました。

朝食を済ませ町職員と私たちはタウンハウスへ。丁度アメリカは大統領選挙の真っ只中。日本のように選挙カーで名前を連呼し街中を回っている姿は見られません。コンコードタウンハウスの前には下院議員の立候補者が出入り口の左右に別れて立ち、選挙活動（静かに熱い戦い）をしていました。

タウンハウスでは、歓迎セレモニーが行われ、20年にわたる七飯町とコンコード町の交流の歴史について触れられていました。また、来年の両町の姉妹都市 20 周年記念式典に向けた話し合いも行われ、和やかに粛々と進められました。残念であったのは、永年両町の架け橋となりご尽力くださったトム・カーティン氏が、体調が思わしくなく欠席されたことです。トム氏の看病の合間を縫い、奥様が見

学に同行して下さったことに、感謝の気持ちでいっぱいです。友好の20年の歴史は、携わってきた方にも平等に年月が積み重なり、20年の歳を重ねてきたのです。

V、コンコード町の魅力

さて、コンコード町はアメリカ独立戦争に深く関わっている町です。街中にも独立戦争についての遺産が数多く残っています。何より、コンコード町の町民が歴史について深い知識と敬意を持ち合わせており、自分の住む街を心より愛しているように感じました。

ノースブリッジ、ミニットマン像、スリーピーホロー墓地、コンコードミュージアム、エマーソンの家、オーチャードハウス、ウェイサイドハウス、ウォールデン湖など、残された多くはきちんと管理され、観光目的だけではなく、町として後世へ伝えるべきものを知らしめており、町民が誇りを持って伝承していると感じました。

また、美しい自然が残されており、まるで大沼公園の中に住んでいるような錯覚を覚えました。枯葉で敷き詰められた道路も、信号機などの機械的な色彩がない街も、自然を受け入れることで、趣が増大していました。

ホームシックにならなかったのは、大沼公園の景観に似ていたこの街のお陰かもしれません。



ミニットマン像の前にて



ウォールデン湖

VI、姉妹都市として

私たちがホームステイした一週間に個人的なものを含め4回のパーティーがありました。ホストファミリーを始め七飯町にゆかりのある方たちが50人も集まって下さいました。中には歴代の国際交流員もいて、子どもたちが小さかった頃を思い出し懐かしくもありました。

コンコード町では、町民が主体となりアイデアを出し合い、七飯町との交流を広めています。このようなパーティーも私たちをもてなす意味合いと、交流を引き継ぐ人材を育てる意味合いがあるように感じました。出席された一人が「また、コンコード町に戻ってきて下さい。でなければ、真の交流にはならない」と話した言葉が印象的でした。

私はこの研修に参加するに当たって、同じことを考えていました。コンコード町へ行っただけ、コンコード町から受け入れただけではどちらも一方通行にしか過ぎません。しかもそれらは、七飯町の行政が関わって叶ったものです。その後に、町民として個人として、いかに交流できるかが鍵となり、永く続ける意義があると思います。折角の姉妹都市の交流を深めるためにも、気軽に町民が関わって行けるような周知や交流の具体的内容の検討が必要だと思いました。



ハロウィンの仮装
(左が杉村さん、右が私)

VII、日本人とアメリカ人の気質

クラッツリー御夫妻は、とても私たちに親切でした。どこに行きたいか、何をしたいか、何を見たいのか色々な伝手を頼って実現してくださいました。日本人はどちらかというともてなす方が得意で、されることには慣れない私が感謝の気持ちを伝えると、「七飯町の方も同じなんですよ」と言ってくださいました。その



老人施設にて

時まで遠慮の気持ちが強かった私ですが、「頼ってもいいかな」と思えるようになりました。そして、自分がホームステイをしたことで、今までの受け入れ方を見直すことができました。日本人の遠慮が曖昧さとなって、アメリカ人には通じないことも多くあるようです。生活習慣やスタイルの違いで理解できないこともあるかもしれませんが、日本人、アメリカ人のそれぞれを尊重し、個人として分かりあえればいいと強く思いました。

そんな中、私の職業を知ったクラッツリー婦人がコンコードにある老人施設の見学を手配してくださいました。そこは、日本の福祉施設とはかけ離れた建物で、日本とアメリカの保険制度の相違がありますが、利用料は目が飛び出るような金額でした。その分サービスも充実しており、まるでホテルのような仕様でした。そこで暮らしているお二人と食事をさせていただきお話できたことは励みとなりました。

VIII、再会の約束

出発の朝、車のライトだけが頼りの真っ暗な公園。私たちが着いた頃には、ほとんどの派遣者は既に荷物をバスに積み込んでいました。ホストファミリーとの別れに涙ぐみ別れを惜しむ姿があちらこちらに。私ももれなく涙が溢れてしまい

ましたが、来年七飯町で行われる 20 周年式典での再会を約束し、バスに乗り込みました。暗闇の中、見送りのファミリーたちの姿はあっという間に見えなくなってしまいました。暫くの沈黙の間、コンコード町を離れる感傷に浸りながら、いつの間にか再訪する計画を練っていました。

IX、ニューヨーク

初めてのニューヨーク。コンコード町とは違う洗練された街並み。観光地としてのニューヨークには目を見張るばかりでしたが、ここでの生活は考えられません。是非行って見たかったのは、美術館と博物館とミュージカル。そして、自由の女神の中。テレビで見るその姿ではなく、自由の女神の目線で世界を見たかったからです。



自由の女神

X、「終わりに」ではなく「これから」

今回、海外交流派遣研修に参加させていただき、心より感謝いたします。約 10 日ぶりに日本へ帰ってくると、都会の雑踏さえ心地よく感じました。つい昨日までは、アメリカに染まっていたはずなのに、50 年以上も日本人として生きていると、やはり日本が最高。

今回の研修は、七飯町を再発見する機会にもなりました。七飯町とコンコード町の類似点は多々あっても決して同じになることはできません。日本が好き、七飯町が好きという気持ちがなければ、誇らしく交流することができないでしょう。両町の良いところを参考にしながら、「繋がり」を深めていくお手伝いをしたいと思っています。

ホストファミリーはじめ、急遽の研修決定にも関わらず親切にしてくださった参加者の皆さん、両町のたくさんの関係者の皆さん、本当にありがとうございます。七飯町に転居して 15 年。七飯町に恩返しできるようにチャレンジしたいと思っています。そう、「これから」始まります。